

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年9月8日

【評価実施概要】

事業所番号	3271600458		
法人名	有限会社 美奈須		
事業所名	グループホーム 萌		
所在地	島根県簸川郡斐川町大字学頭1322-1 (電話) 0853-73-7170		
評価機関名	NPOしまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白濁本町43番地		
訪問調査日	平成21年8月28日	評価確定日	平成21年9月11日

【情報提供票より】 (21年8月5日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年4月12日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人
職員数	17人	常勤6人, 非常勤11人, 常勤換算13,6人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	2階建ての 1~2階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000円	その他の経費(月額)	30,000円
敷金	有()円 ○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	○有(200,000円)	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000円		

(4) 利用者の概要(8月5日現在)

利用者人数	18名	男性 6名	女性 12名
要介護1	1名	要介護2	2名
要介護3	5名	要介護4	5名
要介護5	5名	要支援2	0名
年齢	平均 84.2歳	最低 59歳	最高 100歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	島根県立中央病院・斐川生協病院・原齒科医院
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

運営方針に管理者の設立の想いが込められており、地域密着型として近所、自治会、学校、医療機関などと積極的に接し、地域からの見学者が増えるなど、5年間の管理者、職員の努力がうかがえるホームである。利用者のできることを常に考え、良いと思うことは意見を取り入れ職員と話し合い実行している。少しでも楽しく住んでもらえる生活の支援を行い、積極的に記録の開示を行うなど家族との関係を大事にしている信頼関係が築かれている。管理者はホームのあるべき姿を追求し、職員と共にやりがいや喜びのあるホームを目指し、さらに日々取り組んでいる。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	「思いや意向の把握」「居心地よく過ごせる居室の配慮」が課題であったが、センター方式を活用し、積極的に家族、職員で話し合い取り組み改善されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	「自己評価検証確認書」ノートを作り職員全員で評価項目を分担し、責任を持って評価し、確認しあいながら年間を通して計画的に取り組んできた。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	ホームの現況や取組状況を報告し、関係者との連携、協力など論議され、共に向上しようという会議内容である。自治会の積極的な応援を受けて認知症の勉強会に講師として呼ばれたり、勉強会参加者が利用者と昼食を共にする等、活動が広がっている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	日頃から家族との関係を大切な部分と位置づけて、家族の訪問時やアンケート、家族会などを通し積極的に意見を聞き、家族の納得のいく支援を心がけている。出された意見に対して迅速に対応している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近所の人との毎日の触れ合いはもちろんのこと、地域の諸行事に参加、交流している。又、災害時には地域消防団との協力体制も出来ている。地域の一員としてさまざまな場面で受け入れられている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員全員で地域密着型サービスとしての事業所の役割を確認しあい、わかりやすい理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日ミーティングを行い、理念の内容を確認しあっている。利用者がその人らしい暮らしができていないか振り返っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会や地域、学校行事への参加、小・中学校の体験学習、ボランティアグループの受け入れなど、積極的に地域と交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員が評価項目を分担し合い、年間を通して振り返りを行っている。改善計画シートを活用し全員で課題を共有し検討している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の状況や防災体制、家族や地域との連携などを協議し、会議での提案を受けて積極的に活かしている。年間計画に基づき出席者も工夫している。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町主催の研修会や事業者連絡会に参加し情報交換を行ったり、随時出向き相談をするなど連携に努めている。	○	さらに情報交換を密にされてホームの現状を理解してもらい、相談しながら連携をとられることを期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族来訪時に「もえつうしん」、金銭報告、などと共に「1ヶ月の様子」を写真付きで報告している。介護記録の開示を積極的に行い、利用者の状況を共有している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時には必ず声をかけ意見を聞いている。家族会総会の運営にも工夫が見られ、要望、意見は運営に活かしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員は日常的に1・2階の往来があり、顔なじみになっていて、2ユニットの利用者の状態を把握できる表を作成している。管理者は日々職員と意思疎通を量り、離職が無いよう努めている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員が研修に参加し内容を共有しあっている。医師、看護師などによる勉強会や資格取得の支援、職員一人ひとりの目標に対する日常的な教育など、積極的に取り組んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のケアマネジャーの会議や連絡会に参加したり、開設が同じ時期の同業者と相互研修を行うなど意欲的に取り組んでいる。職員も学びや気づきをケアに活かしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に自宅や入所先を訪問したり見学に来てもらい馴染みの関係を築いたり、2週間程度の体験入居の期間を設けるなど家族、本人共に十分納得した上で開始している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	伝統行事や料理方法など、利用者の知識や知恵を教わったり、さりげなく手伝ってもらっている。感謝の言葉をかけてもらうことで、職員もやりがいを感じている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を活用したり、利用者や家族と一緒にカンファレンスを行うようになり、情報の収集が多くなった。家族にも協力してもらって思いの把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	「介護計画作成のためのお願い」文書を家族に送り、利用者や家族、関係者を交えてカンファレンスを実施し、具体的な介護計画を立てている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月、本人、家族、職員の意見を聞いて介護計画の見直しを行い、利用者の状態を細やかに把握している。「評価用紙」を活用し介護計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	受診時の付き添い、外出、外泊、家族の宿泊など、希望に応じて柔軟な対応をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な往診、必要時には受診をしている。ホームと医師との連絡ノートで病状を共有して支援している。検診を実施することで早期発見につなげている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	対応指針を作成し、基本的な姿勢を説明している。その上で利用者、家族の思いを大切にしながら医療機関と連携して対応している。看取り事例もあり、方針は全員で共有して研修をしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	トイレ誘導や介助時には利用者のプライドを傷つけないように声かけや言葉づかいに気をつけている。月に1回、個人情報保護委員会を開き確認しあっている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが起床時間や過ごし方はその日の利用者の体調や思いのペースにあわせて支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の今もてる力を活かしながら職員と一緒に作り、食べ、片付けを行っている。食べたいものを聞いてメニューに取り入れたり、家族の方が食事の介助にこられることもある。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	温泉の湯を使用している。利用者の希望に沿った支援をしている。夜間入浴も実施し、利用者主体の支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備、片付け、畑での収穫など、生活歴や特技を活かしたり、人参の皮むき、お絞り巻きなど利用者のできることを考え役割を作り出す工夫をしている。買い物、外食、弁当の日は楽しみに待たれている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日の天候によって柔軟に外出支援に取り組んでいる。散歩、買い物、外食、ドライブなど外に出る機会を大切にしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけず自由に出入りができるようになっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力の下、年2回避難訓練を実施している。地域の人々の協力により防火協力会が結成され、地域消防団との協力体制もできている。備蓄もしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	定期的に管理栄養士から栄養指導を受けている。野菜の煮汁を活用することにより胃腸の健康管理をし、利用者にあった支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花や利用者の笑顔のスナップ写真、なじみやすいカタカナ文字の歌詞などを飾りあたたかい雰囲気作りをしている。浴室、トイレ、廊下など、清潔に保たれている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族の手作りの作品、タンスや仏壇、孫の写真、現役時代の写真や立派な表彰状などが持ち込まれ家族の協力を得ながら居室作りが行われている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。